

## 〔G-CSF製剤〕

薬品名 規格 用法・用量		フィルグラスチム（遺伝子組換え）Filgrastim ◎グラン Gran シリンジ：75 $\mu$ g/0.3mL/シリンジ <sup>o</sup> M300 $\mu$ g/0.7mL/シリンジ <sup>o</sup>	レノグラスチム（遺伝子組換え）Lenograstim ◎ノイトロジン Neutrogen（中外） 注：100 $\mu$ g/V（添付溶解液1mL） 250 $\mu$ g/V（添付溶解液1mL）	中止時期
がん化学療法による好中球減少症	①急性骨髄性白血病 ②急性リンパ性白血病	（成人・小児）がん化学療法剤投与終了後（翌日以降）で骨髄中の芽球が十分減少し末梢血液中に芽球が認められない時点から投与 1日1回		好中球数が最低値を示す時期を経過後5000/mm <sup>3</sup> に回復したら中止
		100 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 皮下注 *200 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 静注 点静	2 $\mu$ g/kg 皮下注 *5 $\mu$ g/kg 静注 点静	
	③悪性リンパ腫 小細胞肺癌 胚細胞腫瘍（睾丸・卵巣腫瘍等） 神経芽細胞腫 小児がん	（成人・小児）がん化学療法剤投与終了後（翌日以降）から投与 1日1回		
		50 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 皮下注 *100 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 静注 点静	2 $\mu$ g/kg 皮下注 *5 $\mu$ g/kg 静注 点静	
	④その他のがん腫	（成人・小児）がん化学療法により好中球数1000/mm <sup>3</sup> 未満で発熱（原則38度以上）あるいは好中球数500/mm <sup>3</sup> 未満が観察された時点から投与。また上記症例で引き続き同一のがん化学療法を施行する場合、次回以降、好中球数1000/mm <sup>3</sup> 未満が観察された時点から投与 1日1回 ③と同じ		
再生不良性貧血に伴う好中球減少症 （好中球数1000/mm <sup>3</sup> 未満）		（成人・小児）1日1回 400 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 点静	1日1回 5 $\mu$ g/kg 静注（成人） 皮下注又は静注（小児）	好中球数が5000/mm <sup>3</sup> 以上に増加した場合は減量あるいは中止
先天性・特発性好中球減少症 （好中球数1000/mm <sup>3</sup> 未満）		（成人・小児）1日1回 50 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 皮下注	（成人・小児）1日1回 2 $\mu$ g/kg 皮下注又は静注	
免疫抑制療法（腎移植）に伴う好中球減少症		-	好中球数1500/mm <sup>3</sup> （白血球数3000/mm <sup>3</sup> ）未満から投与 1日1回 （成人・小児）2 $\mu$ g/kg 皮下注	
骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症 （好中球数1000/mm <sup>3</sup> 未満）		成人のみ：1日1回 100 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 点静	成人のみ：1日1回 5 $\mu$ g/kg 静注	
ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症の治療に支障を来す好中球減少症 （好中球1000/mm <sup>3</sup> 未満）		（成人・小児）1日1回 200 $\mu$ g/m <sup>2</sup> 点静	（成人・小児）1日1回 5 $\mu$ g/kg 静注	投与期間は2週間を目安とするが、好中球数が3000/mm <sup>3</sup> 以上に増加した場合は減量あるいは中止

\*：出血傾向で、皮下注困難な場合

## VIII. 血液用剤

効能・効果	薬品名 用法・用量	フィルグラスチム（遺伝子組換え） Filgrastim ◎グランシリンジ Gran	レノグラスチム（遺伝子組換え） Lenograstim ◎ノイトロジン Neutrogin	
造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進		（成人・小児）造血幹細胞移植施行翌日ないし5日後から 1日1回 300 $\mu\text{g}/\text{m}^2$ 点静	5 $\mu\text{g}/\text{kg}$ 点静	好中球数が5000/ $\text{mm}^3$ 以上に増加した場合は中止

・いずれの場合も適宜増減

効能・効果	グランシリンジ	ノイトロジン	中止時期
造血幹細胞の末梢血中への動員 ①同種及び自家末梢血幹細胞採取時の単独投与による動員 ②自家末梢血幹細胞移植を目的とした単独投与による動員	①（成人・小児）5日間連日又は末梢血幹細胞採取終了時まで連日投与 400 $\mu\text{g}/\text{m}^2$ 1日1回又は2回に分けて皮下注（この場合、末梢血幹細胞採取は投与開始後4～6日目に施行）	②（成人・小児）1日量10 $\mu\text{g}/\text{kg}$ を1日1回又は2回に分けて4～6日間、アフェレスが終了する時点まで皮下注	末梢血幹細胞採取（アフェレス）終了前に白血球数が50000/ $\text{mm}^3$ 以上に増加した場合は減量。減量後、白血球数が75000/ $\text{mm}^3$ に達した場合は投与中止
③がん化学療法剤投与終了後の動員（グランシリンジ：自家末梢血幹細胞採取時）	③（成人・小児）がん化学療法剤投与終了翌日又はがん化学療法により好中球数が最低値を経過した後から、末梢血幹細胞採取終了時まで連日投与400 $\mu\text{g}/\text{m}^2$ 1日1回又は2回に分けて皮下注	③（成人・小児）がん化学療法剤投与終了後（翌日以降）から、1日量5 $\mu\text{g}/\text{kg}$ を1日1回又は2回に分けてアフェレスが終了する時点まで皮下注 十分な動員効果が期待できない場合、1日10 $\mu\text{g}/\text{kg}$ まで可	
④末梢血幹細胞移植ドナーに対する本剤単独での動員	—	④（成人）1日量10 $\mu\text{g}/\text{kg}$ を1日1回又は2回に分けて4～6日間、アフェレスが終了する時点まで皮下注	

・いずれの場合も適宜減量

効能・効果	用法・用量	ペグフィルグラスチム（遺伝子組換え） Pegfilgrastim ◎ジーラスト皮下注 シリンジ：3.6mg/0.36mL G-LASTA（協和発酵社）
がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制		（成人）がん化学療法剤投与終了後の翌日以降、3.6mgを化学療法1サイクルあたり1回皮下投与

【禁】本剤成分又は他の顆粒球コロニー形成刺激因子製剤過敏症 骨髄中の芽球が十分減少していない骨髄性白血病  
末梢血液中に芽球の認められる骨髄性白血病

【重大な副作用】ショック 間質性肺炎 急性呼吸窮迫症候群 芽球の増加 脾破裂 毛細血管漏出症候群

〔ジ-ラスト〕アナフィラキシー 脾腫 Sweet症候群 皮膚血管炎

・緊急時等、好中球数が確認できない場合は、白血球数の半数を好中球数として推定する